

峡南地域在宅療養者支援のための多職種連絡会議の報告

日 時	<p>【第1回】平成28年 7月21日(木) 午後7時～8時30分</p> <p>【第2回】平成28年12月14日(水) 午後7時～8時30分</p> <p>【第3回】平成29年 2月22日(水) 午後7時～8時30分</p>
場 所	南巨摩合同庁舎3階大会議室
目 的	在宅療養を希望する者が、住み慣れた生活の場において必要な医療・保健・介護サービスが受けられるように、医療・保健・福祉従事者が協力しサポートしていく体制の構築を図る。平成26年度に設置された。
内 容	<p>平成28年度テーマ：「看取りまで見据えた在宅療養の推進」</p> <p>【第1回】 出席者：委員25名</p> <p>(1) 平成27年度事業報告・平成28年度事業計画について</p> <p>(2) 医療と介護の連携に係る情報提供</p> <p>・ 峡南在宅医療支援センターにおける取り組みについて</p> <p style="text-align: center;">峡南在宅医療支援センター長 芦澤 敏 医師</p> <p>(3) 在宅療養を支える多職種連携の現状と今後について</p> <p style="text-align: center;">グループディスカッション</p> <p>・ 在宅療養を支える多職種連携の現状と今後について - 在宅移行期 - 全体発表・意見交換</p> <p>【第2回】 出席者：委員20名</p> <p>(1) 峡南地域在宅医療多職種人材育成事業の報告</p> <p>(2) 地域での看取りに向けた在宅医療について</p> <p style="text-align: center;">情報提供</p> <p>・ 在宅医療の現状と課題 南部診療所 所長 市川 万邦 医師</p> <p style="text-align: center;">グループディスカッション</p> <p>・ 在宅療養を支える多職種連携の現状と今後について - 看取りに向けて - 全体発表・意見交換</p> <p>【第3回】 出席者：委員21名</p> <p>(1) 地域での看取りに向けた在宅医療について</p> <p style="text-align: center;">情報提供</p> <p>対象者の思いに寄り添い支えること - 本人・家族の意思決定支援について -</p> <p style="text-align: center;">ますほ訪問看護ステーション 所長 石井 啓子 看護師</p> <p style="text-align: center;">グループディスカッション</p> <p>・ 在宅療養を支える多職種連携の現状と今後について - まとめ - 全体発表・意見交換</p> <p>(2) 来年度の取り組みの方向性の確認</p>
来年度の 方 向 性	H26～28の会議でまとめた10の地域課題について、療養者を主体とした課題に整理し、取組主体を確認、連携の具体策、体制づくりについて検討していく。

平成28年度峡南地域在宅医療多職種人材育成研修会の報告

日 時	平成28年11月4日(金) 午後7時～9時15分
場 所	富士川町民会館 ホール
主 催	峡南保健福祉事務所
共 催	峡南地域在宅療養者支援のための多職種連絡会議
目 的	昨年度の研修会で参加者の達成度が他項目と比較し低く、多職種連携の課題として継続して挙げられている「医療との連携」を中心に学ぶ。医療依存度の高い在宅療養者の事例をとおり、在宅医療への理解を深めるとともに、在宅ケアにおける多職種連携について検討できる機会とする。
内 容	<p>事例検討会</p> <p>&lt;講師・コーディネーター&gt; 山梨県立中央病院 がん支援センター長 許山 美和 先生</p> <p>&lt;全体ファシリテーター&gt; 山梨県立中央病院 がん相談支援センター 緩和ケア認定看護師 山岸 良治 氏 訪問看護ステーションほっと・ほっと葦崎 緩和ケア認定看護師 塚越 暁美 氏</p> <p>【講義】</p> <p>対象の理解 緩和ケアの基本 疼痛コントロール</p> <p>【事例検討】多職種でグループ分けを行い、以下の課題に取り組んだ。 終末期で医療依存度が高いが在宅療養を希望している事例 課題1：苦痛の列挙 身体的 精神的 社会的 スピリチュアル 課題2：それぞれの苦痛についてどのような対策、対処をするか検討</p>
参加者	計119名（保健福祉事務所職員を含む） *内訳は裏面参照 【参加者が多かった職種】 保健福祉事務所職員・講師を含めずに算出 看護師26名(24.5%)、介護支援専門員24名(22.6%)、介護職17名(16.0%)
成 果	<p>研修への参加目的では、多職種連携を学ぶ、多職種の意見を聞くという意見が多く、関係者の連携意識の高さがうかがえた。また、在宅医療を学ぶ、緩和ケアについて学びを深めたい等の意見も多数あり、在宅医療に関する研修ニーズも確認された。</p> <p>課題として継続して挙げられていた「医療との連携」に関しては、参加者の達成度が昨年度と比較し大幅に上昇した。(前年比：74.7% 94.6%)研修のねらいに合わせた事例の選定により参加者の理解促進を図ることができた。参加者の約98%が全体共有・討議で研修内容の理解を深めることができたという回答している。全体共有の方法が理解を深めるために効果的であったと考えられる。</p> <p>峡南地域において多職種連携意識のベースは整いつつあり、今後は連携の具体策を検討していく必要がある。</p>